

令和6年度第3回旭市総合教育会議 会議録

1 期 日 令和7年2月13日(木) 開会 午前10時35分
閉会 午前11時35分

2 場 所 旭市役所本庁舎3階 政策決定室

3 出席者 米本弥一郎(市長)
向後 依明(教育長)
鈴木 典男(教育長職務代理者)
富山 理(委員)
平野 勝久(委員)
田村 俊雄(委員)

4 開 会

5 市長あいさつ

- ・本日は御多用の中、第3回旭市総合教育会議ということで大変ご苦勞様です。皆様におかれましては、日頃より本市の教育行政にご尽力を賜り、心より御礼申し上げます。
- ・さて、今年度の総合教育会議は、第3期旭市の教育に関する大綱の策定に向けて7月と11月に開催し、本日は第3回目となります。これまで皆様よりいただいたご意見やご提案を参考に協議を重ねてきたところでございますが、この度、おかげ様をもちまして大綱(案)が出来上がりました。
- ・本日の議題は、大綱(案)についてご説明させていただく予定でございます。より良い大綱とするため、皆様方には忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。

6 議題

(1) 第3期旭市の教育に関する大綱(案)について

【市長】

- ・それでは、ここから私の方で進めさせていただきます。前回11月14日の第2回会議で大綱の素案について協議をしていただきました。その後に、委員の皆様からいただいたご意見等を踏まえ、大綱(案)を作成しましたので提案させていただきます。
- ・それでは、事務局より説明をお願いします。

【教育総務課長】

- ・資料の説明をする。
- ・協議項目について説明する。

①基本理念及び前文について

【市長】

- ・それでは、基本理念及び前文について進めて参ります。
- ・基本理念については、わかりやすくキャッチーな表現で「郷土 夢 未来」と3つの言葉を掲げ「郷土を愛し 夢に向かって歩み続け 未来を拓く人づくり」と副題で説明しています。
- ・前文につきましては、この大綱の着眼点や概要を説明しています。委員の皆様からのご意見・ご提案を参考にし、このようにとりまとめましたが、いかがでしょうか。

【委員】

- ・前回、何度も繰り返して皆さんと協議した結果で、よくまとまっていると思います。
- ・「郷土 夢 未来」をシンボルにできるといいと思います。

【委員】

- ・私も同じで、これでいいと思います。

【委員】

- ・デザインで基本理念を英語表記しているところですが、郷土をどう示すか、再検討していただきたいと思います。
- ・文言や内容については、とても素晴らしいものだと思います。

【委員】

- ・今回の大綱の策定は、事前に様々な意見や考え方を交換してきた過程があり、進め方が非常によかったと感じています。
- ・基本目標について、今後どのように展開していくかを具体的にイメージしていくことが、早急に求められてくると思います。
- ・基本理念の前文は、大分協議してよくなったと思います。素案の段階ではDXやデジタルという言葉が使われており、それらを活用するといった方向性でしたが、教育とはそれらを創ることを含みます。この案のように「科学技術」という表現に変えていけば全体を包含していいと思います。
- ・それから、ウェルビーイングは、一般的な用語として浸透していくことが必要で、それには実現ということが直接関係してくるのだと思います。
- ・子どもの「ども」は、漢字かひらがなか、再検討が必要だと思います。

【教育総務課長】

- ・先の会議で、学校教育指導の指針（案）に「子供」を漢字表記していることについて、文部科学省では漢字表記していると説明がありましたが、統一性についても、再度検討いたします。

【教育長】

- ・素案で示した基本理念（案）は文が長いとのご意見から、今回の案は、子どもから大人まで全ての市民が言いやすい、親しみやすいキャッチーな基本理念になり、「旭の教育は、郷土 夢 未来」と合言葉やスローガンとして使えるのではないかと思います。シンプルですが、これからの複雑で予測困難な時代において、市民一人ひとりの自己実現のため、ふるさと旭の更なる発展のために市としてどのような教育施策を推進していくか、市長を始め教育委員会の強い思いが、この「郷土 夢 未来」の中にしっかりと込められていると考えております。
- ・前文については、時代背景・教育の役割・施策の方向性と、大変簡潔に整理できており、この内容でよろしいと思います。

【市長】

- ・理念につきましても、前文につきましても、大変よく練りに練っていただいたと感謝を申し上げます。
- ・「郷土 夢 未来」と誰でも覚えやすく、これが旭の教育の大綱の柱だということでもわかりやすくいいと思います。
- ・デザインの意図をお聞かせいただきたい。

【委員】

- ・デザインについて、説明する。

【市長】

- ・基本理念の前文中、「充実を図り・・・」と点の数が4つありますが、一般的に点は3つではないかと思いますが、デザイン上4つにしたのでしょうか。

【委員】

- ・デザイン的には4つでも3つでも、どちらでも構いません。

【市長】

- ・それでは、再検討していただければと思います。

②基本目標について

【市長】

- ・続きまして、5つの基本目標とその下にそれぞれ箇条書きで示すこととなる基本目標の説明について、ご意見等をお聞かせいただければと思います。

【委員】

- ・いろいろな変化が次々に起こっている状況ですので、こういった基本目標の取組を継続していく中であれば、その変化を読み取ることができ、即座に対応・修正、あるいは新たな取組を追加することができると思います。
- ・このような変化があったと結果だけ知らされ、その都度対応していたのでは事後の対応ということで、次へのステップを踏み出すことが難しくなると思いま

す。継続していくことが大きなものになってくると思います。

- ・体言止めにしたことについて、全体的に「〇〇を展開」としているが「〇〇の展開」とした方がいいのではないのでしょうか。

【教育総務課長】

- ・「〇〇の展開」と「〇〇を展開」が混在していたものを、統一したほうがいいのではないかということで「を」に統一修正しました。「の」だと不自然になる文、どちらでも問題ない文とありますが、統一する必要性も含めご意見をいただければと思います。

【委員】

- ・「〇〇の展開」でも構わないと思います。
- ・基本目標1は「人を育てます」という目標で、その下の説明文は、そのための手段が①②③と示されるのだと思いますが、3つ目の「人材を育成」は目標と重複しているように感じます。ここは、目標達成のためにどうするかということで「力の育成」といった表現ではいかがでしょうか。

【教育総務課長】

- ・体言止めとすることは、読み手にイメージを膨らませる利点があります。どちらが適するか、文脈により判断して見直したいと思います。
- ・また、基本目標1の③は、ご提案いただいた「力の育成」のような別の言葉に修正したいと思います。

【委員】

- ・基本目標3の②の「違いを知り、ともに歩もうとする」とありますが、生命や人類を尊重することを言うのであれば「ともに歩もうとする」は一緒に生活するといったイメージがあるので、別の表現にできればいいかと思います。
- ・基本目標1の②に「違いを感じること」、基本目標3の②に「違いを知り」とありますが、多様性を感じるよりも知ることによって価値を創造してもらうのでいいのではないかと思います。感じるだと、それを深く追求するといった印象を持ちます。再度検討していただければと思います。
- ・その他については、どんな事業を展開するのか想像できて問題なく読めていいと思います。

【学校教育指導室長】

- ・基本目標3の②「違いを知り」は、誰もが個性を尊重し、一人ひとりの違いを互いに理解しながら一緒に協働していこうということで考えた文言です。ご意見をもとに再度検討します。
- ・基本目標1の②「違いを感じること」は、社会に目を向けた中で様々な違いを感じることで新たな価値を創造していくという意図で作成しました。こちらにつきましても、ご意見をもとに再度検討したいと思います。

【委員】

- ・理念も基本目標も主題・副題ともに、何度も修正を重ね洗練されたものと思います。基本目標も当初に比べ、理念と同じように短く簡潔になっていていいです。副題も3つ程度にまとめられていて見やすくいいと思います。
- ・何度も検討してきたわけですが、一つ気になった点は、基本目標1の②の「さらに社会に目を向け違いを感じることで価値を創造する、持続可能な社会の創り手を育成」の部分に「社会・社会」と「創造・創り手」と、同じ言葉が繰り返されている点で、もう一度見直した方がいいと思います。

【教育総務課長】

- ・再度、検討いたします。

【委員】

- ・基本目標1の②は、前段が長い上に読点の後ろにまた続くので、前段をもう少し短くすれば読みやすい文になるのではないのでしょうか。
- ・基本目標3の②は「誰もが個性を尊重し」があれば「違いを知り」は省いてもいいのではないかと思います。

【委員】

- ・「誰もが個性を尊重し」は国境を越えたところまで範囲が広がることで、違いを知るということは非常に重要な意味を持っています。私は「違いを知り」という言葉は残した方がいいと思います。
- ・基本目標1②の「違いを感じる」については、「違いを知る」に替えてもいいと思います。

【教育長】

- ・基本目標3の②の「ともに歩もうとする」については、チーム旭、オール旭で創り上げていく、市民とともに進めて行くことが最も重要だという市長の考えから、皆でともに歩むということを掛けているので「ともに歩もうとする」という表現は残したいと考えます。
- ・基本目標について申し上げますと、教育は人づくり、人づくりはまちづくり、広く言うと国づくりとつながります。そして教育こそがまちづくりの原点であると認識し、将来を見据えて旭の教育はどのような人づくりを目指すのか、その強い思いをここに盛り込んでおります。
- ・基本目標1から5までありますが、特に1から3は基本理念に直接結びつく、いわゆる人づくりに関する目標です。今回の教育大綱は「郷土を愛し誇りに思う人づくり」「夢に向かって歩み続ける人づくり」「地域社会の未来を切り拓く人づくり」の3つが大きな柱となっています。これまでの考えをまとめてみますと、子どもたちを始め、全ての市民がこれからの複雑で予測困難な時代において、自己実現、そして地域の創り手になるためには、個々が備えている能力や可能性を最大限に引き出すことが特に重要です。そのためには、夢を持つことが大切です。なぜなら、夢は人が成長する大きな原動力になり、時には不

可能を可能にするものです。また、郷土に愛着と誇りがあるから、未来を切り拓き地域社会の創り手となる大人へと成長していくので、これからの時代は、特に「郷土 夢 未来」のキーワードを大切にしていかななくてはならないと感じています。

- ・基本目標4は、市民一人ひとりの豊かな生涯を通じた学習の支援をする、生涯学習社会の実現を目指すものです。
- ・基本目標5は、社会教育についてで、豊かな地域づくりを目指すものです。
- ・いずれの目標も重点取組み3点を定め、非常にバランスよくできていると思います。

【市長】

- ・基本目標の説明について、体言止めにして多く用いられている「育成」ですが、外からその人を育てようとするようなイメージを持ちます。それも大事ですが、その人個人が持っている自発的に伸びて行こうとすること、内発的な向上心も大事ではないかと考えております。そういったことから「育成」という言葉が多過ぎるのではないかと感じます。
- ・基本目標5の③の最後にある“みんなで創る未来ず〜っと大好きなまち旭※”について、注釈の米印の表示位置を再確認してみてください。

③その他

【委員】

- ・先ほどの「違い」のことですが、昨年10月に東京医科歯科大学と東京工業大学が統合し、東京科学大学が設立した話を前回の会議でしました。記者会見で理事長の言葉に「科学技術の進歩は極めて速く、進歩に対して人や社会が歩調を合わせるのが困難になっている。これからの変化に対応してより良き未来を拓いていくためにも我々は統合した。2つの大学の文化の違いはあるが、その違いを前向きに捉える」とありました。この「違い」という言葉は簡単ですが、大きな意味があります。是非、入れていった方がいいと思います。

7 その他

なし

8 閉会